

事故のない未来へ願うこと

桑野小 5年 佐藤 胡幸

作文をきっかけにスマホで交通事故について調べてみた。8月中の事故の件数を見て鳥肌とともに心ぞうがバクバクした。

8月18日に3件もの事故が起きた。3件も・・・たった24時間の間でおそろしいことだと思った。その中に生後4ヶ月の女児死亡。むねの奥がキュットしまるような感覚と手がふるえた。まだ4ヶ月、かなしい事故だ。私は、担任の先生に言われた。「交通事故にあうな、交通事故はいつてきますと出ていき亡くなって帰ってくる、そういうことなんだよ。亡くなった本人もいたいけど、残された家族だって胸がいたい。交通事故で家族より先に死んではいけない。自分のためにも家族のためにも」

私はこの言葉が心にひびいた。

〇〇〇〇さん（当時7才）

「いつてきます」

これが家族との最後の会話だった。この2分後、大型トラックにひかれてなくなった。大変急なことだと思う。2分前に元気だった子が亡くなるなんてかなしい事故だと思った。

私はじゅくに歩いていくことがある。たまに自転車とすれちがうことがあり、その中でできんだと感ずることがある。高校生が片手をはなして運転していたり、スマホで音楽を聴いたりしながら走っている人もいる。歩行者が通るところをよけもしない人もいる。

交通事故は、飲酒運転や居眠り運転など、交通ルールを無視しておこることや、ルールを守っていても起きてしまう事故もあるので、一切なくすことはむずかしいことだと思うが、交通ルールを守り1件でも交通事故が減ることを、今もこれからも私は願っていく。一人ひとりが気をつけていればかなうと思う。しかし、願うだけでなく、この作文などを通して少しでも交通事故を減らすために伝えていきたいと思った。